

中 3 国語



## 【添削課題】

出典：金森修『この瞬間を歴史に刻む』／京都教育大学 06年

## 解答

歴史には、過去の経過から思いがけない事実を発見する面白さがある。科学においても、研究方法や科学者の社会的地位が時代によってどのように変化してきたかを確認することで、現状への分析の眼差しがより精密になり、科学もまた長い時間をかけて創り上げられてきた一つの文化であることが認識できる。近未来の日本で科学研究の意味や価値の根本的な問い直しが必要となる過程においても、科学的な思考は重要な土台となるだろう。〔200字〕



## 【問題】(漢習)

出典：『古今著聞集』

## 現代語訳

昔、元正天皇の時代、美濃の国に貧しい男がいた。老いた父がいたが、この男は山の本草をとって、その代価を得て、父を養っていた。この父は朝晩ひどく酒を好んで欲しがったので、ひょうたんという物を腰につけて、酒を売る家に寄って、いつも酒を求めて父を養う。ある時に、山に入って薪を取ろうとすると、苔の多い石にすべって、下を向いてころんでしまったところ、酒の香りがしたので、思いがけないことで不思議に思っ、その辺りを見ると、石の中から水が流れ出てくる所がある。その色は酒に似ていたもので、くんでなめると、すばらしい酒である。うれしく思っ、その後、日ごとにこれをくみ、満足するまで飲ませて父を養う。ある時に天皇がこのことをお聞きになりました、靈龜三年九月、その場所におでかけになり、ご覧になった。これはまさしく親孝行のゆえに天地の神が感心に思っ、恩恵をさずけたとお感じになりました、天皇は男を美濃の守になされた。家は豊かになり、いっそう孝養の心は深かった。その酒が出てくるところを養老の滝と名づけられた。このことよって、同じ年の十一月に年号を養老と改められたということだ。

## 解答

問1 (A) 形容詞・連体形

(B) 動詞・未然形

(C) 動詞・連体形

(D) 動詞・終止形

(E) 助動詞・已然形

(F) 動詞・連用形

(G) 助動詞・連用形

問2

(1) = (エ)

(4) = (エ)

問3  
(ウ)

問4 思いがけないことで不思議に思っ

問5 石の中から酒が流れ出てくる所。

問6 第二段落∥ある時山(3行目) / 第三段落∥時に御門(6行目)

問7 天皇が男の親孝行に感動したから。〔16字〕

出典：『宇治拾遺物語』

## 現代語訳

このようにしながら、(鼻の) はれあがった日数が多くあったので、物を食う時には、弟子の法師に、平らな板の長さ一尺ほどで、幅一寸ほどのものを鼻の下にさし入れて、(互いに) 向かい合って、上の方へ持ち上げさせて、物を食べ終わるまで、そうさせていた。他の者に命じて持ち上げさせる場合は、荒々しく持ち上げたので、腹を立てて、物も食わなかった。そこで、この法師一人に決めて、物を食うたびごとに、持ち上げさせていた。ところが、体の具合が悪くて、この法師が出て来なかった時に、朝粥を食おうとしたが、鼻を持ち上げる人がいなかったので、「どうしようか。」などと言うと、(内供が) 使っていた童が、「わたしがよく持ち上げてさしあげましょう。決してその御坊には劣らないでしょう。」と言うのを、弟子の法師が聞いて、「この童がこのように言っています。」と言ったところ、(この童は) 寺で召し使う少年で、見た目も下品ではなかったので、内供のそばに仕えさせていたが、この童が、鼻を持ち上げる木を取って、きちんと向かい合って、ちょうどよいように、(内供の鼻を) 高くもなく低くもなく持ち上げて、(内供に) 粥をすらすらさせたところ、この内供が「大変上手な人物である。いつもの法師よりすぐれている。」と言って、粥をすすっているうちに、この童がくしゃみをしたようにして、わきをむいてくしゃみをした時に、手がふるえて、鼻もたげ木が揺らいで、鼻がはずれて、粥の中へほとんと入ってしまった。内供の顔にも、童の顔にも、粥が飛び散って、一面にかかってしまった。内供は、大変に腹が立って、頭や顔にかかった粥を紙でぬぐいながら、「お前は、にくたらしい心を持った者であるな。ものごとを知らないと言うのはお前のような者を言うんだぞ。わたしではない高貴な身分の人の御鼻であつたらどうする。その場合は、このようにはしないだろう。ひどいことだ。ものごとのわからないおろか者め、お前(そこを) 立て立て。」と言って、追い立てたところ、(童は) 立ち上がりざまに、「世の中の人で、このような鼻を持った人がいらっしやるならば、鼻を持ち上げにも参りましょう。おろかな事を言われる坊さんであることよ。」

と言ったので、弟子たちは、物のうしろに逃げ隠れて笑った。

**解答**

問 1

① 形容詞

② 助動詞

③ 接続詞

④ 助動詞

⑤ 形容詞

⑥ 形容詞

⑦ 動詞

⑧ 形容動詞

⑨ 形容詞

⑩ 助詞

問 2

(エ)

問 3

むかひゐて (2行目)

問 4

(イ)

問 5

(ウ)

問 6

われならぬやむごとなき人の御鼻にもこそ参れ。(13行目)

理解を深める

私ではない高貴な人の御鼻を持ち上げに参るとしたら大変だ。



会員番号	
------	--

氏名	
----	--